

### 観光客からみた余暇時間における観光の重みに関する考察

福井工業大学大学院 学生員 ○喜田 将伍  
 いであ株式会社 正会員 片柳 澄明  
 福井工業大学 正会員 和田 章仁

#### 1. はじめに

わが国においては急激な高齢化により、2007年からは高齢化率が21%を超えたことによって超高齢化社会へと突入した。この後もさらに高齢化率が高くなり続け、2050年には40%に達すると推計されている。このような認識をもとに、観光客、なかでも高齢者の生活における余暇活動を考えることにした。

本研究では、高山市内に自動車又は公共交通機関で来訪する観光客を対象にアンケート調査を実施した。これにより、観光旅行希望年齢や観光旅行の優先度などを把握し、シニア世代の余暇活動のなかで最も支持されているものの一つである観光に焦点をあて、その実態を明らかにすることである。

#### 2. 調査概要

調査は、岐阜県高山市の市営駐車場（神明等の三か所）及びJR高山駅前広場と近接の高速バスターミナルにおいて、平成22年10月1日から2日の二日間行った。調査方法としては、入庫あるいは出庫する他府県ナンバーの自動車運転手またはJR及び高速バス等で来訪している観光客を対象にアンケート調査票を手渡しで配布し、回収は郵送とした。アンケートの内容は、何歳まで観光旅行をしたいかや、観光旅行の優先度などである。アンケート調査票の配布回収数及び有効回収数は以下に示す通りである。

##### ①自動車利用観光客の調査

自動車の配布票数は209票で、133票回収し、有効回収数は130票（有効回収率62.2%）であった。

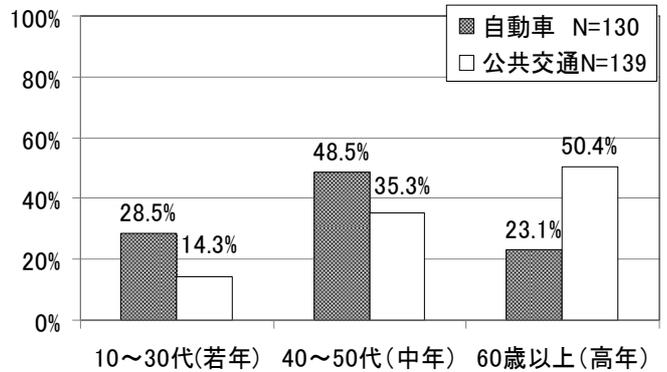
##### ②公共交通利用観光客の調査

公共交通の配布票数は260票で、141票回収し、有効回収数は140票（有効回収率53.8%）であった。

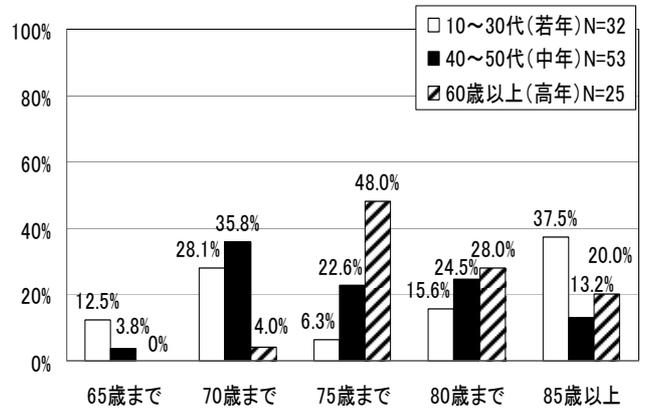
#### 3. 調査結果

##### (1) 回答者の年齢構成

キーワード 観光, 公共交通, 自動車



図—1 利用交通手段別回答者の年齢構成



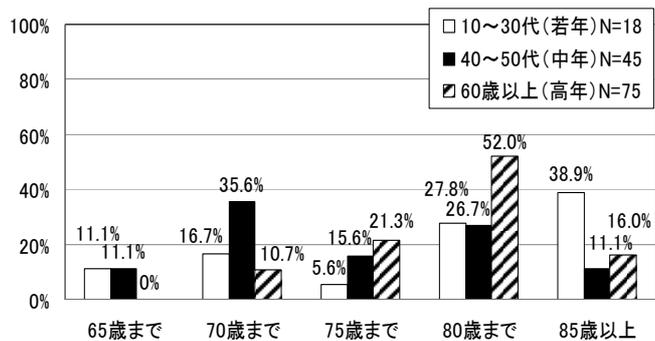
図—2 積極的に観光旅行をしたい年齢（自動車）

回答者の年齢構成を示したものが図—1である。自動車利用者は、10~30代の若年、40~50代の中年で約8割を占めており、60歳以上の高年が最も低くなっている。これに対して公共交通利用者は高年が最も高く、公共交通利用者の半分を占めている。

##### (2) 将来の観光旅行希望年齢

##### ①自動車利用観光客

何歳まで積極的に観光旅行したいかを自動車利用者に尋ねた結果が図—2である。これをみると、自動車の若年では、85歳以上の項目が最も高く、約4割を占めている。次いで70歳までが高く、28%を占めている。中年では、70歳までが最も高く、36%を占めている。60歳以上の高年では、75歳まで観光旅行をしたい人が約半数を占め、最も高くなっている。



図—3 積極的に観光旅行をしたい年齢（公共交通）

②公共交通利用観光客

自動車利用者と同様に公共交通利用者に尋ねた結果が図—3である。公共交通の若年では85歳以上が約4割を占め、最も高くなっている。中年では、70歳までが36%と最も高く、次いで80歳までが27%である。高年では、80歳までが過半を占めており、最も高くなっている。

(3) 観光旅行の優先度

趣味、買い物、食事、家族と過ごす時間、アウトドア、習い事、ボランティア活動、仕事などの生きがいと観光旅行を比較し、観光旅行が占める程度、すなわち優先度を、自動車利用者と公共交通利用者に別々に示した。

①自動車利用観光客

自動車利用の若年では、「中程度である」が半数を超えており、「ある程度優先させる」が43%である。中年では、「中程度である」が約半数を占めており、次に「ある程度優先させる」が3分の1である。60歳以上の高年では、「ある程度優先させる」が4割強と最も高くなっている（図—4参照）。

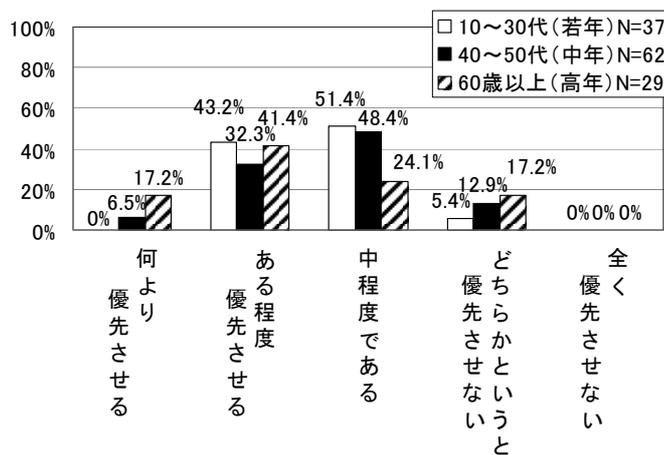
②公共交通利用観光客

公共交通では、若年、中年、高年ともに、「ある程度優先させる」が約6割であり、最も高くなっている（図—5参照）。これは自動車利用者と大きく異なっている。

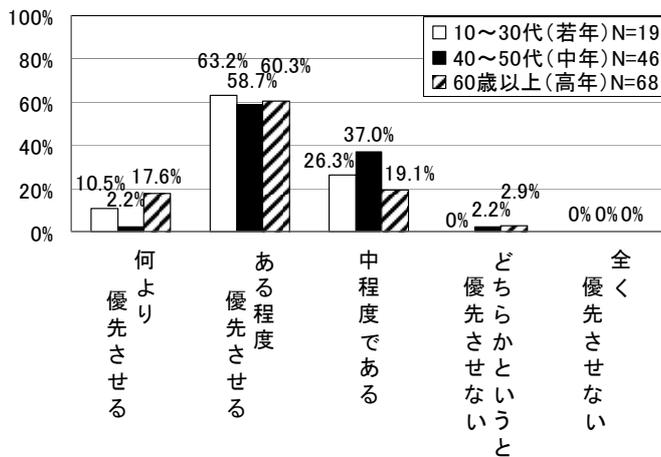
4. まとめ

本研究では余暇活動の中の観光旅行は、高齢になるほど自動車よりも公共交通を利用していることがわかった。

将来の観光旅行希望年齢の自動車利用者では、60歳以上の高年では、75歳以上を希望しており、他の年齢と異なっていることが分かった。これに対して



図—4 生きがいの中での観光旅行の優先度（自動車）



図—5 生きがいの中での観光旅行の優先度（公共交通）

公共交通利用者では、観光旅行をしたい年齢が自動車より高い年齢を希望しており、特に高年における傾向が強い。このことから高齢になっても公共交通を利用し、観光旅行を楽しみたいと考えていることがわかった。

観光旅行の優先度では、高年の「何より優先させる」と答えた方が自動車利用者と公共交通利用者ともに2割弱示していることがわかった。一方、公共交通利用者では全ての年齢層で多くの生きがいの中の選択肢から、観光旅行が優先されていることから、自動車利用者より公共交通利用者の方が生きがいの中での観光旅行の優先度が高くなっている。逆にいえば、生きがいの中で観光旅行を優先させている人は、公共交通を利用していることがわかった。

参考文献

1) シニアライフは余暇の過ごし方次第、木戸伴雄、人と車、pp. 36-37、2009